

建 築 家

通 信

2019.8.31
vol.120



公益社団法人日本建築家協会 関東甲信越支部 長野地域会
JIA長野県クラブ

<http://www.jia-nagano.com>

E-mail info@jia-nagano.com

地域材に取り組む意味とは…

JIA長野県クラブ副代表 新井 優



建方が進む「満蒙開拓平和記念館セミナー棟」



総檜造りの住まい

独立以来、地域材をテーマに仕事を進めてきた。幸い、近くに先祖伝来の育林を基に伐採から製材・出荷まで行う森林組合や、志を共にする工務店に恵まれ、さらには全国的な「近くの山の木で家をつくる運動」が背中を押してくれた。この近山運動とは地域の山の木を使うことで日本の山と国土、水や空気を守ろうとするもので、その後の大きな社会テーマになる地球環境問題にもつながる壮大な運動であった。自分も実際に関わっていただけることにワクワクした。さらには、この運動自体が良質な家づくりを目指すユーザーを育てる事と信じた。

地域材に取り組む中で、品質管理と寸面の共通化、流通、加工、構法、大工技術、地域らしい家づくり等々、様々な課題がスカッと解決しないまま今に至っている。

地域材は一次産業の農産物と捉えるとわかりやすい。畑での野菜の出荷単価は安定安だが流通や加工のサービス料をいかに農家に残せるのかが六次化=ブランド化と捉えると、地域材の活性化の方向性もわかりやすい。

一方、輸入食材はポストハーベストの心配や、大規模営農による価格破壊が国内農業の衰退化等の問題が提起され、反対に国内の有機栽培に対する安心感は、特に子育て世代の母親はすごく敏感である。環境問題はまず、食材と呼吸から人体とコンタクトする。しかし、同じ農産品なのに家づくりには外材か国産材かを気にするユーザーはほとんどいない。

7月に視察した大規模米松製材工場はある意味では非常に勉強になった。少子高齢化の中で今の日本の豊かさを保ちながら、これからやっていく方法は生産性の向上だと言われています。わずか十数人の営業マンで日本の米松流通シェアの

殆どを牛耳る大規模工場に生産性向上の現場を見ました。米松⇒木材流通業者・プレカット業者⇒ビルダー⇒ユーザーへと連続していく現代の家づくりは、如何に生産性を上げて利益率を高めるのが目的化してしまう危機感を感じてしまう。

この工場では手間のかかるサービスコストを極端に省き、大量安価で出荷する米松材はプレカットを含む中間流通業者は一定の利益を確保出来る。それがシェアを伸ばす大きな要因と感じた。つまり、経済的には川上から川下までWIN-winです。

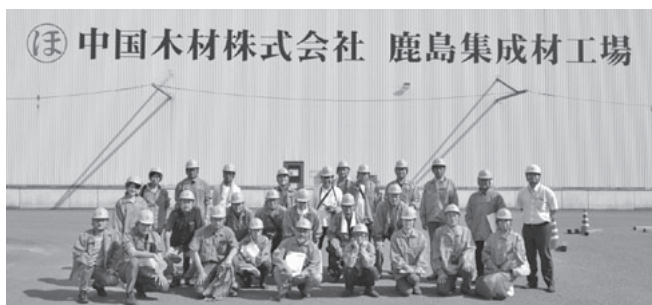
私自身はこれまで地域材利用において、中間サービスの金額をいかに山に残すかが勝負と信じてやってきたが、一向にシェアが伸びない原因が今回の視察でよく分かりました。

しかし、これで良いのかと再度頑張る気にもさせた機会でした。地域材でつくる家の価値を魅力化していくことは私たち設計者の大きな役割です。

グローバル化した経済に地域も無情に巻き込まれていく中で、近山運動の精神に立ち戻り、自分たちの街の将来を地域材の家づくりに託していく。このドンキホーテのような戦いが微力ながらも個性あふれる信州を豊かにしていくことと信じた。

でも、その姿をちゃんと見てくれる人々も居る私達の社会は、まだまだ捨てたものではありません。その期待に答えられるようにさらに地域材に取り組んでいきましょう！





中国木材(株)鹿島工場にて

「広い!」、最初に感じた製材工場の感想である。製材ラインの全容が一目見ただけでは掴めず、高速で原木が製材されていく様子に圧倒させられた。中国木材(株)鹿島工場では、ベイマツを中心に、国産材も25%使用しながら、KD材、AD材、集成材を月産9万㎡以上、製材・加工している。また、工場で使用される電力や乾燥用の熱源も木質バイオマス発電施設から供給されており、ゼロエミッションを実現させている。

さらに驚いたのは、中国木材(株)全体の従業員2,400人の内、営業スタッフは20人以下と極めて少ない点である。住宅メーカー等への営業

は一切行わず、プレカット会社のみを対象に販売をしているというシンプルな流通システムであった。

国内で使用されるベイマツの大部分をこの中国木材(株)が取り扱っており、ドライビームを主力として、ほぼ日本全体を席巻している。

工場全体を視察するだけでも2時間以上を要し、その規模と高次元の加工技術に接し、私たちが目指している地域材、国産材を使用した住宅建築について、どのように進むべきなのか、暑い工場の中を歩きながら考えていた。「エンドユーザーの顔が見える製品づくり」を強みに、コスト意識も持ちながら、今まで以上に身近で生産しているメリットを活かす必要がある。価格を超えた地域材の価値を伝えること、施主の満足度を高めることをJIAの面々と一緒に今後も粛々と続けなければならない。

今回の夏のセミナーでは、参加者の建築に対する熱い情熱を再確認した。子供のように夢中で語り合う姿から、たっぷりと元気を分けていただいたことが最大の収穫である。



中国木材(株)について説明

新入会員紹介



正会員

(株)伊東亮一建築設計事務所 伊東 亮一

このたび入会致しました伊東亮一と申します。長野市で設計に勤めています。今後皆様様々な場面でお世話になるとは思いますが、何卒よろしくお願い致します。

JIA長野県クラブは志が高い建築家集団という印象で作品や諸活動を拝見しておりました。これからは自分も一員として成長し貢献できるよう学んでいきたいと思っております。



法人協力会員

タニコー(株) 松本営業所 原山 勝彦

当社は業務用厨房機器のメーカーとして“食”という暮らしに欠かせない文化につくり手を支える視点を大切に貢献してまいりました。

タニコーが日ごろ大切にしている事、それは“お客様視点・モノづくりや安全・安心へのこだわり”そのいづれもが“人に宿る思い”を起点としています。

そんな私たちタニコーが今、果たすべき役割とは…? 消費構造の変化で新たなマーケットに挑戦するイノベーターのよきパートナーとなる。私たちタニコーはそんな“創るを支える会社”を目指しています。



法人協力会員

大光電機株式会社 坂田 誠

弊社は、1926年(大正15年)創業以来、照明器具の製造販売で皆様にお世話になっております。特色として、「TACT」(Total Advance Creative Team)というライティングデザイナー集団が全国で約110名在籍しており、お客様(建築家、施主様等)が意図する空間に最適なライティングプランを提案させていただいております。

全国に約70ヶ所の事業所、約830名の社員が在籍しております。長野県には長野市と松本市に社員が15名在籍しております。

皆様のお役に立てるよう行動して参ります。今後ともよろしくお願い致します。

編集後記

今年度の夏のセミナー「製材工場 [中国木材(株)+まちなみ+建築見学の旅 in 茨城・栃木]」が7月19~20日の一泊二日で開催されました。一日目は佐原のまちなみ(重要伝統的建造物群保存地区)、中国木材(株)鹿島工場。二日目は日立市役所、JR日立駅(ともに妹島和世+西沢立衛/SANAA)、茨城キリスト教大学キアラ館(白井晟一)、真壁のまちなみ(重要伝統的建造物群保存地区)と真壁伝承館(渡辺真理+木下庸子+山口智久/設計組織 ADH)、道の駅ましこ(原田真宏+麻魚/マウントフジアーキテックススタジオ)の各所を見学。流石のJIA長野県クラブ!雨の予報を覆し、天候にも恵まれ、



夏のセミナー「道の駅ましこ」にて

充実した二日間でした。尚、当会のホームページのブログに、参加された方々から見学箇所ごとの報告を掲載しております。ぜひそちらもご覧いただきたいと思っております。……………竹内 祐一

開催したイベント

- 4月19日(金)… 2019年度通常総会
- 6月7日(金)… 仕事を語る会①
- 6月25日(火)… 地域材を考える会①
- 7月19日(金)~20日(土)… 夏のセミナー

今後の行事予定

- 9月6日(金)… 仕事を語る会②
- 10月26日(土)… まちなみウォッチング
- 11月20日(水)… 仕事を語る会③
- 12月1日(日)… 冬のセミナー
- 1月15日(水)… 地域材を考える会②
- 2月22日(土)~23日(日)… 第14回建築祭
- 3月13日(金)… 仕事を語る会④

皆様からの投稿をお待ちしております。誌面へのご意見もお寄せ下さい。



編集人/竹内 祐一 発行人/荒井 洋
発行所/JIA長野県クラブ
長野市南長野妻科426-1 長野県建築士会館内
TEL: 026-232-3897 FAX: 026-232-5303
<http://www.jia-nagano.com>
E-mail info@jia-nagano.com